

取材日：2015年8月1日



糖尿病



北部知多半島医療圏

病院と診療所、医師とメディカルスタッフが相互に意見を交わし合える関係を深めて。

Point of View

- ① 手軽な短期教育入院をきっかけとする紹介・逆紹介で関係を構築
- ② 「さくらねっと」オンラインで予約・医療情報の共有ができるシステムを試行
- ③ フォローアップのための地域連携外来でもつながる

公立西知多総合病院
内分泌・代謝内科統括部長
石川 敦子先生

公立西知多総合病院
糖尿病看護認定看護師棟担当
川畑 愛子氏

公立西知多総合病院
糖尿病看護認定看護師外来担当
加賀江 順子氏

中井内科クリニック
院長
中井 晃先生

みわホームクリニック
院長
神野 美和先生

こじま内科
院長
小島 邦義先生

診療所のニーズに応えた短期教育入院プログラム

公立西知多総合病院（以下、西知多総合病院）は2015年5月、旧・東海市民病院と旧・知多市民病院が統合し新規開設された。これを機に、病診連携を含めた地域医療連携体制の強化が病院全体の課題のひとつに挙げられる。

そして、今、注目を集め始めているのが、糖尿病の病診連携で成果を見せている内分泌・代謝内科だ。同科統括部長の石川先生は、旧・知多市民病院時代の糖尿病地域連携において実績をつくり、現在は、地域医療連携室担当も兼務している。

「診療圏域がこれまでの知多市を中心

としたエリアから、東海市、大府市、東浦町を含めた地域に広がりました。また、統合によって糖尿病にかかわるスタッフのマンパワーが充実しました。もちろん患者さんも増え、患者層も変化しましたから、ますます診療所の先生方の協力が大切になっています。以前の連携でうまくいっていた部分をベースに、より広く緊

密な地域連携を構築するべく尽力中です」（石川先生）

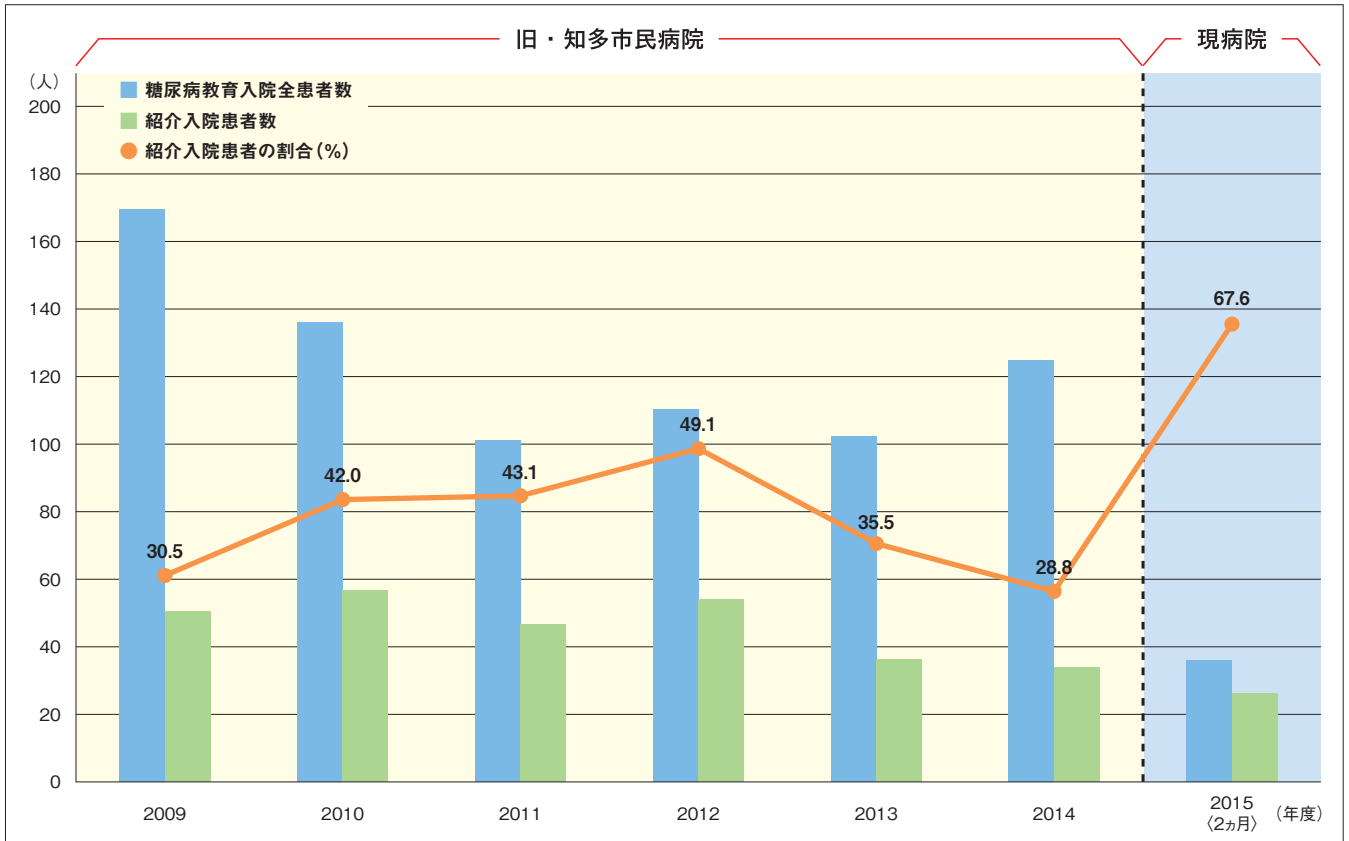
診療圏域が広くなれば、患者層も変化する。それぞれの地域の患者の特徴については、ご開業の先生方が詳しい。東海市北部で20年にわたり診療している、こじま内科院長の小島先生は、このエリアの糖尿病患者の特徴をこう語る。



左から石川先生、川畑氏、加賀江氏、中井先生、神野先生、小島先生

【資料1】

糖尿病教育入院の年次推移



「東海市は鉄と物流の町で、比較的若い患者層が多い。3交代制の工場勤務や長距離トラックのドライバーなど、若年層の患者さんには、生活が不規則になりがちで、糖尿病のコントロールが難しい職業の方が多いです」(小島先生)

同じく東海市にある、みわホームクリニック院長の神野先生も、同様

の患者にまつわる問題を吐露する。「企業の産業医の先生方から、『なんとか教育入院をせず労働力を欠損することなく、通院で糖尿病治療をしてほしい』との依頼を受けるケースも珍しくありません。『工場の機械は止められない、人員は恒常的に不足している、だから長期の休みは困る』という事情なのです」(神野先生)

一方、知多市南部で診療している中井内科クリニック院長の中井先生は、「若年層の患者さんは土曜日に集中しており、平日は圧倒的に高齢者が多い状況です。高齢の患者さんならば、教育入院も受け入れていただけるのかと思いきや、なかなか踏み切れないようです」と話してくれた。

2週間の入院となると、若年層は長期休暇をとりづらく、さらに経済的な負担が大きいので高齢者にとってもハードルは高い。診療所の先生方が、教育入院のために病院を紹介するのを躊躇せざるをえないのも無理はないだろう。そうした課題に対して、西知多総合病院は2泊3日の短期教育入院を提案したという。「実は、旧・知多市民病院のころにも



地域連携ネットワーク「さくらねっと」の概要

公立西知多総合病院は、地域の医療機関をつなぐネットワークを構築し、患者の診療情報（検査情報）のリアルタイムな共有と、患者紹介、医療機器等の共同利用に関連した業務の効率化を推進します。将来的には、知多半島内急性期病院間でのネットワーク構築も推進予定です。

「さくらねっと」により可能になること



実施していたのですが、短期教育入院患者はそれほどいませんでした。しかし、新病院では確実に利用者が増えており、患者層の広がりを感じています。プログラムは、水曜日の朝に入院していただき、合併症のチェックから教育まで集約して行い、金曜日の夕方には退院というものです」（石川先生）

長く休むことなく経済的負担も軽く、患者にとって利用しやすい短期教育入院は、診療所の先生方にとっても、「入院が必要な患者さんにおすすしめしやすい、ありがたいプログラム」（中井先生）のようだ。

「さくらねっと」で予約も診療情報の共有も可能に

さて、短期教育入院に関連するいくつかのシステムやプランは、西知多糖尿病地域連携で重要な役割を果たしている。そのポイントのひとつ目は予約システム。地域医療連携室が主導して構築したインターネットを利用する「さくらねっと」は糖尿

病連携だけのためのシステムではなく、病院の全診療科と登録した地域の医療機関とをオンラインで結ぶ。診療所の先生方は、外来診療、検査などの予約をいつでも、患者を診察しているその場でも、ダイレクトにできる。また、教育入院は希望日を事前にファクスで申し込むことによりダイレクト入院が可能だ。

このシステムを利用している神野先生は、「患者さんを診察中にも、また診療が終わった夜にでも、オンラインで外来や短期入院の予約ができるのは、本当に便利です」と語る。

「さくらねっと」には、実はもうひとつの機能がある。

「患者さん本人に同意していただいた場合には、診療情報や画像を含む検査結果を、オンラインネットワーク上で開示できるようになっています」（石川先生）

登録医が増えて、この機能がフル稼働すれば、病院の医師やメディカルスタッフと診療所の先生方、患者とが、チームになって病気と闘うためのツールになる。チーム医療を実

践するにあたって、大きな期待を寄せられる「さくらねっと」なのだ。

「地域連携外来」によって退院患者をフォローアップ

「短期教育入院における連携の重要事項の2つ目は、計画中の『地域連携外来』です。旧・知多市民病院で、『フォローアップ外来』として設けていたものと似たスタイルで、常勤の糖尿病専門医3名が1週間に各1枠実施で考えています」（石川先生）

診療所の先生方からの紹介によって、西知多総合病院の短期教育入院プログラムを受けた患者は退院後、逆紹介で再び診療所の先生方の元に戻る。その後を病院がフォローするためにつくられようとしているのが「地域連携外来」だ。退院後1ヵ月、3ヵ月、半年といった節目で検査を病院で行う通常と別枠の外来は、患者の日常を見守り、糖尿病をコントロールする役割を果たす診療所の先生方のニーズに実にフィットする。「私は、インスリンの導入も行ってい

ますが、糖尿病専門医ではありません。ですから、病院で定期的に診てくださる専門医の先生の存在が心強い。億劫がって、なかなか病院に行きたくない患者さんも多くいますが、地域連携外来であれば、目的が明確なので患者さんを説得しやすく助かります」(小島先生)

「私は以前、フォローアップ外来を活用させていただいていました。医師にはなかなか本音をしゃべってくれない患者さんが、病院のメディカルスタッフの方々には多くを話してくれるようです(笑)。会話の内容は貴重な情報で、それらをフィードバックしていただける機会が生まれるという意味でも地域連携外来は必要で

す。ぜひ、早期に動かしてください」(中井先生)

各々の職種が力を尽くし、始まった糖尿病地域連携

活発な意見交換が続く中では、糖尿病連携は地域という大きなフィールドにおけるチーム医療であり、メディカルスタッフが果たす役割も大きい点が共通認識として見えてきた。そこで、西知多総合病院の糖尿病看護認定看護師の方々にも話をうかがった。

同院では、外来の診察室の近くにフットケア室や療養指導室が設けられている。そこで活躍しているのが

外来担当の加賀江氏である。

「外来では自覚症状がない段階の患者さんが多く、時間も限られているので、最低限、治療の必要性を理解していただくことに力を尽くしています。治療の継続を促すのが外来担当の看護師の重要な役割と心得て、先生方とは別のアプローチで、患者さんと親しく話せる関係を構築しよう心がけています」(加賀江氏)

また、病棟担当の川畑氏は、教育入院の患者とのかわりの

中で大切にしているのは、「一人ひとりの患者さんの“違い”を理解すること」だと言う。

「入院となれば時間は十分にあるので、今後どのように生きていきたいのか、というところから話し合います。ご高齢の患者さんにとって、生活習慣の改善や薬物治療の継続はたいへんでしょう。そこで、生活の中にどう治療をとり入れていくかを患者さんと一緒に考えます」(川畑氏)

病院も、診療所の先生方も、メディカルスタッフも、それぞれの立場で患者を思い、自身の役割を果たしている。地域におけるチーム医療のベースは、すでにできていると言っている。西知多糖尿病地域連携はスタートしたばかりで課題もあるが、着実に成果をあげている。

【資料3】

糖尿病市民公開講座の案内



糖尿病市民公開講座

日時 11月7日(土曜日) 第1部 10時~12時
第2部 13時~14時30分

会場 公立西知多総合病院2階講堂
参加費：無料

Program

1. 最近の糖尿病治療
講師：竹内誠治 内分泌・代謝内科医長
2. 食事療法の基本
講師：吉川真澄 管理栄養士
3. からだのケア
講師：加賀江順子 糖尿病認定看護師
4. みんなで体操
講師：杉江真史 理学療法士
5. 特別講演「私と囲碁とインスリン」
講師：木部 夏生さん
(公益社団法人日本糖尿病協会インスリンメンター)

2部 リラックスヨガを体験してみよう 【定員】30名
講師：YUKAKO (金 祐加子) さん
1型糖尿病を発症後、一時期ストレスで体調不良となったときに、ヨガと出会い、自分を取り戻され、ヨガ講師で活躍されています。
タオルを持参下さい。動きやすい服装でご参加下さい

主催：公立西知多総合病院糖尿病対策委員会

公立西知多総合病院

〒477-8522
愛知県東海市巾着池3-1-1
TEL：0562-33-5500

中井内科クリニック

〒478-0041
愛知県知多市日長字神山畔123
TEL：0569-42-0200

みわホームクリニック

〒477-0031
愛知県東海市大田町蟹田126
TEL：0562-32-0030

こじま内科

〒476-0002
愛知県東海市名和町蓮池15
TEL：052-603-2633